

# ベネズエラ選管発表を受け入れないのは、一部の「極右勢力」だけでない

9月1月号の、日本AALAの機関紙の1面記事に対する疑問と意見

2024年8月10日 小松崎榮

猛暑の中、非同盟運動の基本である国連憲章とバンドン宣言をメルクマールにして、ご活躍頂いていることに感謝申し上げます。

さて、7月28日、南米ベネズエラで大統領選挙が行われました。日本AALAの機関紙「アジア・アフリカ ラテンアメリカ」は、これに対する論評を掲載しました。

以下、幾つかの疑問点を指摘し意見を申しあげます。

## 1. 選管発表を受け入れないのは「一部の極右野党」は、事実でない

= 広範な野党の統一組織や多くの中南米諸国が、選管発表に異議を唱えている =

第一の問題は、記事のリード部分で、選管発表を「一部の極右政党は『不正』選挙だとして、受け入れを拒否」とし、また、見出しでは「一部野党が拒否」としていることです。

この記述では、選管発表を受け入れないのは、極めて特異な一部勢力（極右）であり、ベネズエラ国民は全体として、マドゥーロ候補を当選とする選管の発表を肯定しているような印象を読者に与える論建になっています。これは、事実と全く違い選管発表に異議を唱えている勢力を極右政党とレッテルを貼り、結果的に選管発表に異議を唱えている政党や国民を貶める見解だと思います。本当に、選管発表を受け入れないは、「一部の極左政党」だけなのでしょうか。

### (1) ベネズエラ国内では、広範な政党（MUD）や国民が選管発表を受け入れず

今度の大統領選挙には、10人を越す候補者が立候補しましたが、事実上は、マドゥーロ候補と主な野党等の統一候補のゴンサーレス候補の対決でした。

ゴンサーレス候補を推して選挙を闘ったのは、「統一プラットフォーム」(Plataforma Unitaria Democratica)です。

この組織は、野党の連携（統一）組織である「民主統一会議」(Mesa de la Unidad Democratica = MUD)と、多様な市民組織、2015年の国会議員選挙で圧勝した反チャベツ派の国会議員、退役軍人等で構成されています。

「民主統一会議」(MUD)は、中道右派の「正義第一党」や「キリスト教社会党」(コペイ)、社会民主主義の「大衆意思党」、労働者中心に結党した「民主行動党」をはじめ、中道左派、中道、中道右派等、ベネズエラの20を超える野党で構成されています。

「民主統一会議」(MUD)は、2015年の国会議員選挙では、議席(167)の三分の二以上の112人を獲得して圧勝しました。それに対しマドゥーロ大統領が支配する最高裁判所は、一部の議員(3人)の言動等を口実に、「国会の権限を無効化し、最高裁が代替する」として、国会を形骸化しました。

そうしておいて、マドゥーロ大統領は、新憲法をつくるためとして別に「制憲議会」を設置し、

これまで国会が持っていた立法権などの権限を奪い、「制憲議会」に付与しました。

このような構成や実績を持つ勢力が、選管発表を受け入れないのです。これ等の勢力を、どうして「一部極右野党」と決め付けることができるのでしょうか？ ためにしたものと思わざるをえません。

また、これ等の勢力は、選管発表を受け入れないだけでなく、

**各投票所での集計データ等を証拠として出して、ゴンサーレス候補が65%、マドゥーロ候補31%であり、ゴンサーレス候補が勝利している**

**選管発表には公正さと透明性がない。各投票所ごとの生の集計データを示せ**  
等と主張と要求をしているのです。

更に、マドゥーロ政権の与党だったベネズエラ共産党も、次のような声明を出しています。

\*ベネズエラ共産党政治局声明の要旨

- ・投票集計の全てを公表するように要求する
- ・マドゥーロ政権は、ベネズエラ国民から社会的経済的権利を奪って来たが、この選挙で民主的権利を取り上げようとしている。

以上のことから見ても、選管発表を受け入れない勢力を一部の極右政党と決め付けることは、事実を反したためにしたものであり、このような見解は到底認めることは出来ません。

## (2) 多くの中南米諸国は、選管に生データの公開や選挙のやり直しを求める

= 友好的なブラジルまで、選挙のやり直しを求めている =

次に、それでは中南米諸国の態度を見てみます。マドゥーロ候補の当選認めている国は、機関紙からは、中南米カリブ海諸国33カ国のうち12か国前後と読みとれます。

一方、ゴンサーレス候補が当選と認めているとか、選管に投票の透明性(生データ)を求めたり、選挙のやり直しを求めている国は、かなりあります。

**米州機構(アメリカや中南米、カリブ海諸国で構成 = OAS)**は、「選挙結果の全面開示」(それらを)) 全ての政治勢力が精査出来ること」を要求することについて論議しました。

結果は、賛成17、反対0、棄権11でした。

OASで棄権したベネズエラの友好国の**ブラジル、コロンビア、メキシコ**は次の声明を出しています。

- ・選管当局が投票ごとに作成される集計データを早急に公表するように求める。
  - ・国民主権という基本原理は、選挙結果の公正な検証を通じて尊重されなければならない
- ブラジル大統領**は、8月15日に次のような要旨の発言をしています。
- ・マドゥーロ氏に「良識」があれば、各国から選挙監視団を受け入れて選挙をやり直すべきだ。
- チリ大統領**は、次のような要旨の発言をしています。
- ・マドゥーロ勝利と言う結果は、信じがたい。
  - ・検証不可能なかなるものも結果を認めない。

このことから選管発表を受け入れないのは「一部の極右野党」との見解は、偏見であることは

明らかでしょう。

また、機関紙の二段目4行は「これをうけアメリカや中南米の新米右派政権9カ国が、与党の勝利宣言を批判して選挙結果の見直しを求めました」との記述は、選管の発言を受け入れないとする勢力を矮小化する、ためにしたものと思います。

## 2. 4つの客観的根拠から「ゴンサーレス候補の勝利」と

= MUD等が、選管発表を認めないのは、独自の出口調査や開票報告書からでない =

機関紙は、「ゴンサーレス陣営は独自の出口調査や開票報告書をもとに『ゴンサーレス候補の勝利』を宣言しました」としていますが、陣営の恣意に基づいたものでなく、ゴンサーレス候補の陣営は、次のような客観的な情勢や根拠に基づき勝利を宣言しているのです。

### (1) 770万人が国内に逃れるというベネズエラの国内事情

ベネズエラでは、国民の四分の一、770万人もの人々が、自由の抑圧や極度の貧困から逃れて外国に移住しています。国連難民高等弁務官事務所は、ベネズエラ難民救済のキャンペーンも張っている状態です。このようは政権を、国民が支持することは考えられません。

野党側は、この現実をふまえ、反マドゥーロの統一候補を擁立して闘えば、勝利すると昨年秋から計画的に取り組みを進めて来ました。

これに対し、今度は野党候補が勝利するとの見方が、マスコミの中で出ていました。2024年7月9日のJETROの通信では、「選挙前から公正な選挙が行われた場合、マドゥーロ候補の再選の可能性は低いとの見方が出ていました。また、このため、野党側は、何らかの方法で立候補の取り消しや、投票後の当選無効化、選挙そのものの延期となること等を懸念していた」と報じていました。

### (2) 民間会社の事前の調査では、ゴンサーレス候補が大差で勝利の予測

#### 世論調査

・ 7月17日 デルクホス(Delphos)

ゴンサーレス = 59.1%、 マドゥーロ = 20.6%

・ 7月5～13日 ORC コンサルトレス (ORC Consultores)

ゴンサーレス = 59.6%、 マドゥーロ = 12.5%

#### 出口調査

・ エジソンリサーチ (Edyson Reserch)

ゴンサーレス = 65%、 マドゥーロ = 31%

・ メガナレシク (Meganalisis)

ゴンサーレス = 65%、 マドゥーロ = 14%

### (3) 野党は、投票所ごとの集計記録(データ)のスキャンをネットで公表

= ゴンサーレス候補が65%、マドウ - ロ候補が31%と発表 =

ベネズエラの投票の手続き、は次の要領で行われます。各自が機械（コンピューター）で投票  
その結果の投票用紙が出る 投票者はそれを確かめて投票用紙を投票箱に入れる 各投票所ご  
とに、投票用紙を機械と手作業で開票し集計する それと選管に報告する。

ゴンサーレス陣営は、各投票場ごとの生の集計データ（全体の約80%、コピー）を入手し、  
それをネットで公表しています。

その合計集計数は、マドウロ候補 = 31%、ゴンサーレス候補 = 65%と発表し、ゴンサーレス  
候補が当選としたとしています。

\*投票所の生の集計データには、州、市、区、投票所名、印刷された日時、投票者数、候補  
者得票数、投票所の責任者、幹事、二人に立会人、オペレーターの氏名、身分証明書番号、署名  
等が記載されています。

### 3. 「一部の野党が暴徒化」と記述、政権側の不公正や国民への弾圧についてはなし

= マドウ - ロ陣営は公正・民主的選挙の合意を反故にし、抗議の民衆を弾圧、候補者に逮捕状 =

機関紙の記事は8月8日現在としていますので、その時点でゴンサーレス候補に対する逮捕状は  
出されていませんので、言及がないことはそうだと思います。

しかし、今回の選挙については、政権側の選挙の自由を踏みにじったり、反政府勢力や選管発表  
へ抗議する国民への弾圧など、権力的な行為は目に余ります。

しかし、機関紙の記事では「野党が呼びかけた抗議行動で、一部の野党が暴徒化しました」と  
だけ記述しています。

一部のデモや集会参加者の行動を持って「野党が暴徒化」と断言するのともうかと思いますが、  
それ以上に、選挙での立候補の自由や投票権の抑圧、国民への弾圧等政権側の暴挙など、国内外で  
大きな問題になっているマドウ - ロ候補や政府側の行為について述べる方が重要だと思います。

#### （1）選挙の公正・民主のための双方で「合意」を、ことごとく踏みにじる

昨年10月、2024年の後半に予定される大統領選挙を公正で民主的に行われるように、マド  
ウ - ロ政権と野党（MUD）等の間で、国際的な仲介で「バルバドス合意」が結ばれました。その  
主な内容は、

大統領選挙は、2024年下半期に行う

国内外の有権者の選挙登録を更新する

EUやカーター財団、国連の選挙専門家ミッション等を選挙監視に参加させる

候補者は自由に選ばれること

候補者の安全で自由な移動を当局は保障すること

しかし、マドゥーロ大統領は、野党側の準備が整わない内に実施した方が有利だ等の思惑から、  
大統領の任期は1月までであるので、通例は11月か12月に実施してきたものを、の合意の無視  
し、2018年に続き前倒しし、7月28日に実施することを決めました。

また、についても破りました。憲法で在外移住者にも選挙権があります。ただし、移住先で選挙登録をしなくてはなりません。その数は数百万人にのぼります。

移住者の多くは現在の政権の自由の抑圧や経済政策による極度の貧困に反対し、自由や糧を求めて移住した人達で、大部分は反マドゥーロです。当然、圧倒的にゴンサーレス候補の得票が増えることは目に見えています。

それを怖れた、政府は敢えて選挙登録事務を送らせ、ほとんどの有権者が投票の権利を失いました。全体でも、登録出来た人は、1000人に満たないと見方もあります。

\*海外移住者は、約770万人。主な移住先は、コロンビア=288万人、ペルー=154万人、ブラジル=51万人など、中南米で654万人。それ以外の地域では、アメリカ=64万人をはじめ119万人とされています。

\*仮に、機関紙の選管発表の数字でも、マドゥーロ候補の得票は、ゴンサーレス候補の得票を僅かに71万票うわまわるだけです。若し、数百万にのぼる海外移住者の有権者が投票したらどうなるのでしょうか？！

更に、についても反故にしました。主な野党等の統一組織(上記に説明をした「統一プラットフォーム」)の推薦候補になったマチャド氏の公職追放の措置を解除せず、立候補が出来なくなりました。また、代わりの推薦候補も立候補が出来なくなり、無名で元外交官のゴンザレス氏が統一候補になりました。

監視団については、特に重要なEUの監視団を直前になり認めないと発表し、公平で民主的な選挙を望んだブラジル等から憂慮する声が上がりました。

## (2) 抗議の国民へは弾圧、ゴンサーレス候補には逮捕状

### 抗議の民衆への弾圧

上記のようにマドゥーロ政権は、マドゥーロ再選を規定事実にするために合意を無視し続けて来ました。そして、政権の支配下にある選管は、透明性のあるデータを示さずに、早々と、マドゥーロ候補の当選を宣言しました。

この選管発表に、透明性のある生のデータを示すようにと国民は抗議と要求の集会やデモを行っています。それに対し、マドゥーロ候補は、選挙期間中「血で血を洗う内戦に陥らせたくなければ」、自身が勝利しなければならぬと有権者を脅かしました(この行はしんぶん赤旗から引用)また、選挙後の抗議の群集に対しては、選管発表を疑う者は「容赦しない」と叫び、刑務所の新設まで指示しています。

8月23日現在、死者は少なくとも23人、拘束者は2000人以上(共同通信)になっています。更に、9月2日現在、死者は27人、拘束者は2400人以上(ロイター)になっています。

### ゴンサーレス候補に逮捕状 = 身の危険を感じてスペインに亡命

立候補の自由を奪っただけでなく、更に、検察は、ゴンサーレス候補が、SNSで次のようなことを発信したとして、内乱扇動と虚偽事実流布で、逮捕状を取り身柄を拘束しようとした。

ゴンサーレス候補は、SNSで次のような発信(要旨)をしています

- ・マドゥーロ候補は、自分の敗北を認めず、事実を隠しながら市民を相手に惨忍な攻勢をしている。
- ・(軍に対し)良心に従って皆さんの家族と隣人が集めた民意に従ってほしい」とし、「外部武装

集団が邪悪な権力の庇護の下で、殴打や拷問、更に殺人を犯すことを防ぎ、国民を守ってくれることを丁寧にお願ひする。

また、SNSで、投票所の集計データを公表したことが、逮捕状に関係しているのではないかとこの見方もあります。

いずれにしても、これが逮捕の条件に当たるのでしょうか？！

これに対し、アルゼンチン、ペルーは直ちに非難声明を出し、ブラジルの外交政策顧問は「(逮捕した場合)それは政治的な逮捕であり、我々は政治犯は存在すべきでないと考えている」、「ベネズエラで権威主義がエスカレートしていることは否定できない」(ロイター)と発言しています。

結局、ゴンサーレス候補は、身の危険を感じ、オランダ大使館に身を隠し、この度スペインの亡命することになりました。

MUDのリーダーであるマチャド氏は、「命に係わる被害が懸念されているので亡命は必要だった。ゴンサーレス氏は外国に逃れた国民と共に外国で闘い、私はベネズエラに留まり闘う」と声明を出しました。

#### 4. 政府の権力下にある最高裁判所に、公平な裁定は期待できない

= 最高裁に持ち込み、最高裁に裁定を求めることは、マドゥ - ロ候補の思うつぼ =

機関紙の見出しで「裁定は選挙法廷に」と述べ、記事の最後に、マドゥ - ロ候補が最高裁選挙法廷が「最終判断を下すよう申し入れ、それが受け入れられて、現在、そのプロセスが進められています(8月8日現在)」と、実に淡々とを記述しています。読みようでは、最高裁にが正な判断を期待しているようにもとれます。

しかし、最高裁が公正な制定ができるのでしょうか。マドゥ - ロ政権がこれまで述べて来たような暴挙が出来る背景は、マドゥ - ロ政権が軍部を握り、選挙管理委員会だけでなく三権を支配下に置いているからです。

その際たるものが、前述したように、最高裁はマドゥ - ロの意向をうけて、国会の権能まで奪う(2015年)ことまでしていることです。

最高裁に公平な裁定は望めません。だからこそ、マドゥ - ロ候補は、選管が公正で透明性のある生のデータを公表すれば、全ては解決する事案を、最高裁に求めて権力で自分に都合の良い裁定を出させようとしたのです。

結果は、その通りになりました。8月22日、最高裁は、選挙の物証については「正当性に異論の余地はない」として、マドゥ - ロ候補を当選として選管の見解を有効と認定しました。

ゴンサーレス候補は「裁判所が不公平であることは周知に事実だ」と批判をしました。野党側(MUD等)は、「最高裁には選挙に関するいかなる機能を遂行する憲法上の権利はなく、決定は無効だ」としています。

### おわりに

権威主義政権は、権力を維持するために、国民の自由の抑圧や弾圧が日常化しています。また、まともに選挙自体をしない国もありますが、選挙を行う場合でも、有力候補の排除(逮捕し身柄の

拘束、政治活動の停止、時には死においやる）、不正な選挙活動、投票結果の改ざん、そして抗議する国民には弾圧というのが常套手段です。その典型がロシアでしょう。

日本国憲法、国連憲章とバンドン宣言をメルクマールとする日本AALAはこのようなことを認めない事は当然として、連帯をするのはこのような政権でなく、自由や人間らしい暮らしを求めて頑張っている国民とだと思えます。それが非同盟運動の本当の姿であり、国連憲章やバンドン宣言の精神だと思えます。